

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学習規律の確立による、児童の学習意欲・教師の指導力向上
- 家庭と連携した自主学習・読書の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 片山 トシエ	委員
	学校長 吉積 清 教頭 笹川 亨
	低学年推進員 片山 トシエ 中学年推進員 三間 由美 高学年推進員 粟田 佐知

校長

吉積 清

【各校の取組状況の把握について】

授業研究会を中心に教員が相互に授業参観し合い、アドバイスし合って取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○漢字・計算など基本的な知識の定着に成果がある。</p> <p>○与えられた課題に真面目に取り組む学習できる児童が多い。</p> <p>●学習に集中できない児童がいる。</p> <p>●学力の定着、またその活用が十分でない児童がいる。</p> <p>●語彙数が少なく、条件を満たして記述したり文を書いたりすることが苦手な児童がいる。</p> <p>●長文を読み取る力が弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・学習の過程で身に付けた知識を、既習の知識と関連付けたり他の学習や生活に生かしたりすることができる。 ・豊富な語彙で書く・話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や計算の小テスト、視写・コグトレ・ドリルパーク学習など、学習の基礎的なトレーニングを継続し、学習意欲を高め集中力を持続できるようにする。 ・タブレットを活用して、一人一人に対応した課題を配信し、知識技能の定着を図る。 ・読み聞かせや範読、毎日の日記指導などに継続的に取り組むことで、読むこと・書くことの基礎力を向上させる。 ・音読カードを活用して継続的な音読指導に取り組んだり、週末読書を推進して読む力を向上させたりする。 	<p>【わかたけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字の構成図を自作し、母音の位置に注目させ、タブレットでローマ字入力ができるようになった。 <p>【低学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中や家庭学習で反復学習を重ねたこともあり、基礎的な学力はつきつつあるが個人差が大きい。 <p>【中学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・コグトレ・ドリルパーク学習に力を入れていく。 <p>【高学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットのドリルパークは活用したが、個別最適な配信はできなかった。 ・繰り返しの音読指導ができていない。音読は文章理解に不可欠であるので今後力を入れていく。 	<p>【わかたけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で繰り返し音読や漢字・計算練習をすることで、文章の理解力も少しずつ定着してきた。 <p>【低学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読の力は全体的に向上した。九九を含め計算の力や漢字の書き取りの力も高まりつつあるが、支援を要する児童もいる。 <p>【中学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・コグトレ・ドリルパーク学習などの基礎的なトレーニングは継続してできた。 ・一人一人に対応した課題の配信はできなかったが、ワークやプリント等で知識・技能の定着を図った。 <p>【高学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校でも家庭でも、繰り返し漢字・計算の練習をすることで、知識が定着しつつある。 ・全員で問題解決した後、個別の練習問題をすることで理解が進んだ。(算数科) 	<p>【わかたけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的にデジタル教科書やローマ字入力アプリを取り入れ、視覚的な支援を行う。また、机上や教室環境を整え、集中できる環境づくりにさらに努める。 <p>【低学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントの工夫やタブレットの活用で、個に応じた内容を工夫し学力を高める。 <p>【中学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習でもタブレットを活用し、個別に対応した課題を配信する。 <p>【高学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読時間の確保をする。 ・個別最適な課題を配信する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○方法や手順がはっきりと分かる学習では、見通しをもち意欲的に課題に取り組むことができる。</p> <p>○タブレットの活用に慣れ、自分の考えをまとめたり、友達と意見の交流をしたりしながら学習を進めることができつつある。</p> <p>●問題の要点をつかんだり、複数の情報の中から必要な情報を選択したりすることが苦手な児童がいる。</p> <p>●自分の思いや考えを、要点をまとめて伝える力が弱い児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えを見直したり、膨らませたりする。 ・自分の考えの根拠を明らかにして、条件に沿って書くこと・話すことができる。 ・自ら課題を見出し、その解決に向けた方向性を考え、他者と協力し、必要な過程を計画・実行しながら解決まで導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方の手立て例や話し方のパターンなどを用い、課題に応じた考えること・書くこと・話すことに一人一人が慣れていけるようにする。 ・学習内容に応じて、ペア学習やグループ学習など学習形態を工夫し、思考を深められるようにする。 ・授業中だけでなく、朝や帰りの会、全校朝会など様々な学習活動の中で、自分の考えを書いたり話したりする機会を設ける。 	<p>【わかたけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立の時間に、制作・料理・スポーツ・ゲームなど、様々な体験を通してソーシャルスキルの大切さを学ばせ、定着させた。 <p>【低学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の発言や、朝・帰りの会・朝会スピーチで話す力は高まりつつある。 <p>【中学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体発表の前にペア発表をして、自信をつけてから発言できるように促していく。 <p>【高学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを互いに見合い、思考を広げさせていく。 ・授業時間の終末や単元の終わりに、自分の考えをまとめる時間をとる。 	<p>【わかたけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立の時間に学んだソーシャルスキルが、個の判断力を高め、休み時間や他の学習への意欲付け・行動につながった。 <p>【低学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアを工夫したりオクリンクプラスを活用したりして、多様な考えに触れさせながら考えることができた。 <p>【中学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習形態を工夫したことで、思考力を深めることができた。 ・朝・帰りの会を活用することで、スピーチ力がついた。 <p>【高学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットやノートに書いた自分の考えを、互いに見合い交流することで、考えを広げたり深めたりできた。 ・自分の考えを書く単元が多かった(国語科)こともあり、自分の考えを表現する力がついてきている。 	<p>【わかたけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階に応じた思考力・判断力表現力が身につくように、自立の時間をさらに創意工夫して進めていく。 <p>【低学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の中でもいろいろな考えを引き出し高め合えるように、学習形態や教材、発問の仕方や板書等も工夫していく。 <p>【中学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアなのかグループなのか、全体なのか、授業ごとに効果的な学習形態を考えていく。 <p>【高学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を持った上で友達と意見交換し、課題解決する授業作りを進めていく。(タブレットの活用)

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○学習の事前準備を整え、チャイムの合図に合わせて学習に向かうことが定着しつつある。</p> <p>○体験的な学習を好み、積極的に活動する。</p> <p>○朝の学習(チャレンジタイム)や読書の習慣が定着しており、与えられた課題には前向きに取り組む。</p> <p>●自ら進んで主体的に課題に取り組むことができにくい児童がいる。</p> <p>●自ら課題を見つけたり、難しい問題に粘り強く取り組んだりすることができない児童、集中して学習するために支援の必要な児童がいる。</p> <p>●家庭学習に丁寧に取り組めなかったり、家庭読書の時間が短かかったりする児童がいる。</p>	<p>・課題解決の経験を通して、分かる楽しさやできる楽しさを体感し、学習に対し自信や意欲をもつことができる。</p> <p>・学習に粘り強く取り組むとともに、自らの活動を振り返って学習の成果や課題を今後の生活や学習につなげることができる。</p> <p>・自主学習に励み、自分のできていないところに気づき、復習し、学力の向上に自主的に取り組むことができる。</p>	<p>・意欲的に学習に取り組めるような導入や課題づくりの工夫・改善を行う。</p> <p>・児童の思考の流れに沿った授業展開や教材・教具の工夫をする。</p> <p>・学習内容を振り返りやすい、ノートに合わせた板書の工夫をする。</p> <p>・「家庭学習の手引き」「自主学習の進め方」を活用したり手本となる自主ノートを掲示したりして、自主学習への意欲が持続できるようにする。</p> <p>・家庭と連携しながら、ノーメディアデーを推進し、家庭読書の時間を確保する。</p>	<p>【わかたけ】</p> <p>・個の得手・不得手を知り、教材作りを工夫した。(木工作やケーキ作り、ローマ字表、九九表の作成等)</p> <p>【低学年】</p> <p>・休み時間に次の学習準備をし、机を整えて、学習への意識付けができています。</p> <p>【中学年】</p> <p>・導入や課題作りの工夫にタブレットを活用する。</p> <p>・T2と授業の流れやノートの取り方などを相談しながら取り組む。</p> <p>【高学年】</p> <p>・自主学習ノートを月に1回互いに見合い、その月のNo1を決めたり内容を参考にしたりすることで、意欲付けができています。</p>	<p>【わかたけ】</p> <p>・自分の好きなものやことを広げたり深めたりする中で、それが自信となり、児童の興味関心が多方面へ広がり、理科や社会、音楽科への意欲付けとなった。</p> <p>【低学年】</p> <p>・自主学習ノートへの取組に慣れ、自分で学習内容を考えて取り組めるようになってきた。</p> <p>【中学年】</p> <p>・タブレットを活用して前時の復習から始めたり、具体物を使ったりすることで、自ら進んで課題に取り組むことができた。</p> <p>・自主学習やノーメディアデーは全校で取り組めた。</p> <p>【高学年】</p> <p>・GTや見学の機会を多くとることで、関心を持って学習し、気付きや考えをまとめられた。(総合・理科・社会科)</p>	<p>【わかたけ】</p> <p>・体験的な学習が、様々な気付きや主体性につながるように続けていく。</p> <p>【低学年】</p> <p>・児童の「もっと学びたい」という意欲を高められるように、スモールステップでの成功体験を大切にしていきたい。また、教師の授業力も高めていく。</p> <p>【中学年】</p> <p>・学習指導の工夫点や改善点を学年間で共有する。タブレットの活用方法も職員間で共有しレベルアップをめざす。</p> <p>【高学年】</p> <p>・「めあて」を児童とともに作り、主体的に学習を進める授業作りをしていく。</p>

令和6年度 学力向上ロードマップ

